

2023年 平和のための戦争展のご案内

第2次世界大戦（1941～45年）の戦争犠牲者は6000万人以上と言われ、その半数近くは一般市民だったという事で戦争の性格を一変させました。ナチス・ドイツによるユダヤ人（400～600万人）虐殺、日本軍の無差別な強姦・虐殺の南京事件・生体解剖、一夜で10万人以上を焼き殺した東京大空襲、県民を集団自決させた沖縄決戦、そして最も恐ろしい原爆が投下されました。

大戦終結の年に結成された国際連合憲章の前文の冒頭には、20世紀前半の二つの世界大戦の反省から、人権とかけがえのない人間の尊厳を踏まえて、国家間の武力の行使をやめ戦争の放棄を謳いました。人間の尊厳とは平和に生きる権利を意味します。

この「人間の尊厳」は翌年に誕生した日本国憲法前文の「平和のうちに生存する権利」・平和的生存権となって再現されました。そして日本は自ら「戦力不保持・戦争放棄」をはじめて世界に宣言しました。

展示した戦争の悲劇のパネルから日本の平和憲法が生まれてきた歴史的背景をみんなで話し合えれば幸いです。

と き：2023年8月5日（土）正午より
8月16日（水）正午まで

ところ：水戸市内原図書館ギャラリー

展示物：『原爆と人間』・『戦場の人々』・『東京大空襲』
その他

主 催：平和のための戦争展うちはらの会

連絡先：080-9457-6381（伊 達）



平和のための戦争展にあたって

1945年、日本がアメリカとの太平洋戦争に敗れ第2次世界大戦が終わってから今年で78年になります。終戦時に生まれた人もすでに78歳です。日本人の大半は戦後の新憲法・日本国憲法の「戦争放棄」のもとで平和に暮らしてきました。世界にも類がない平和国家です。

現在、193カ国の国連加盟国で戦後戦争のなかった国は、日本・スイスなどわずか8カ国です。アメリカは世界最大の軍事国家であると同時に戦争国家です。アメリカと従属的な安保条約を結んでいる日本が、何故、アメリカの戦争に加担できなかったのでしょうか。

ベトナム戦争ではアジアでも韓国・フィリピン・タイなど多くの国が加担しました。しかし、アメリカは自衛隊をベトナム戦争に引き入れることは出来ませんでした。日本本土のアメリカ空軍はベトナム爆撃には本土の米軍基地は使えませんでした。当時占領下にあった沖縄の嘉手納基地に1度着陸してからベトナムに出撃したのです。

憲法9条とそれを守る日本国民の存在があったからです。この事はアジア諸国の人々はよく知っています。

しかし、戦力不保持の憲法9条のもとですでに日本の軍事力は核兵器を除く通常兵器ではアメリカに次ぐほどになっています。歴代の保守内閣は「自衛のための戦力は憲法違反でない」と9条を“ななめ読み”し自衛隊の増強を図ってきました。日本の軍事費はアセアン諸国連合10カ国の1.5倍です。経済力に任せて大軍拡に走る現内閣は憲法9条を一言もしゃべりません。アジアの人々が日本に期待することは何でしょうか。

日本が軍縮を進んで示し日米安保条約を平和条約に換え文字どうりアジアの平和と経済繁栄に貢献する事ではないでしょうか。そして米中の橋渡しアジア地域で戦争を起こさない平和外交をアセアン諸国と一緒に築くことではないでしょうか。日本の平和憲法を世界に広げることにあります。まさに沖縄はその平和のための最前線の基地とならなければなりません。このような憲法9条に基づく平和戦略に誰が反対するのでしょうか。沖縄の代名詞、米軍基地はアジアの平和基地に変わるでしょう。沖縄に国連の平和文化交流機関などの誘致は最も期待されるものです。ロシアがウクライナで武力攻撃をしている今こそ、日本の平和憲法の役割を世界に発信するときではないでしょうか。

生ましめん哉ー原子爆弾秘話

こはれたるビルディングの地下室の夜であった。

原子爆弾の負傷者達は

暗いローソク一本ない地下室を埋めていっぱいだった。

生ぐさい血の匂ひ、死臭、汗くさい人いきれ、うめき声

その中から不思議な声がきこえて来た。

「赤ん坊が生まれる」と云ふのだ。この地獄の底のやうな地下室で

今、若い女が産気づいているのだ

マッチ一本ない暗がりの中でどうしてらいいのだろう。

人々は自分の痛みを忘れて気づかった。

と「私が産婆です。私が生ませませう」と云ったのは、

さっきまでうめいていた重傷者だ。

かくて暗がりの地獄の底で新しい生命は生まれた。

かくてあかつきを待たず産婆は血まみれのまま死んだ。

生ましめん哉 生ましめん哉。己が命捨つとも

栗原 貞子

.....

明治以来、大日本国憲法（明治憲法）の下で10年間おきに戦争を繰り返してきた戦争国家日本。国民は「勝った勝った」と提灯行列して祝った、戦争が当たり前であった戦前。そして原爆投下の悲惨さを受け終戦となりました。

第2次世界大戦（1939～45年）は人間の歴史が始まって以来、空前の戦争となりました。交戦国は米英ソ中心の連合諸国59カ国、日独伊の枢軸諸国8カ国で当時の独立国を殆ど巻き込み文字どおり世界大戦でした。

それまでの戦争は資本主義列強が植民地争奪戦を繰り広げてきましたが第2次大戦はドイツのユダヤ人を抹殺するという大虐殺や日本の三光作戦（殺し尽くし・焼き尽くし・奪い尽くす）のように経済的利害だけでなく人類に対する危機を生み出しました。

日本の場合をみても、日清・日露戦争などでは戦場での軍人どうしの戦争でしたが、31年の満州事変・37年の日中戦争・38年の南京事件のように朝鮮・

中国やアジアの一般の非戦闘員に対する残虐行為が当然のようになってきました。

大半の一般兵士は上官の命令ということでこれらの残虐行為を行ってきましたが、負ける事を知らなかった日本軍の敗退が始まると事態は逆転します。始めて日本の兵隊はそれまでの残虐行為がわが身に降りかかることになりました。

ここに、上官の命令だから自分には責任がないとやってきたことが、何故、自分は上官の命令を拒否できなかつたのか強い反省の気持ちにかられます。

戦争だから仕方がないということの反省から人の命の重さを体験します。戦争から平和への人間としての大変換です。特に、被害者である人々から加害者である日本兵士の命が助けられるという人間愛（ヒューマニティ）に接すると平和の尊さはゆるぎなくなります。その事を謳いあげたのが国連憲章前文です。そこには

.....

この憲章精神を受けて日本は世界はじめて「戦力保持・戦争放棄」の平和憲法が誕生しました。現在国連加盟国は193か国ですが、戦後戦争のなかった国は日本、スイスをはじめ8カ国のみです。アメリカに従属する日米安保条約のもとでアメリカの戦争に協力しないのは日本だけでしょう。ベトナム戦争時でもアジアの主な国はアメリカ協力で参戦しましたが、日本には9条があるのでアメリカは強要できなかったのです。

.....

国連憲章前文と9条の誕生

<そ の 2 >

「ソ満国境、15歳の夏」というDVDを見ました。ときは1945年8月、日本の敗戦、ところは敗戦でソ連兵に襲撃される満州。戦前の満蒙開拓団として満州に渡った人たちの子供で中国人に対して「蔑視と差別」が当たり前というなかで育った100人近くの中学生在が主役。ソ連軍の襲撃で疲労し食べ物もなく

なりある村にたどり着きます。そこの住民に食べ物を求めますが、自分たちの食糧もないのにやるわけにはいかない。日本人にはこれまでどれだけひどい目にあったか、ということで助けることを拒みます。そこに村長さんが現れます。日本軍の一般中国人に対する残虐の数々を是とすることは出来ない。だからと言ってこの子供たちを餓死させるということにはならない、といって村民を納得させ1軒に3~4人ずつ預かり生徒の命をまもりました。人間にとって最も醜い「人の心を鬼にする」戦争のなかから、一人ひとりの命の尊さは同じであるという人間愛（ヒューマニティ）の平和のこころが生まれてきたのです。見るに値するDVDでした。

人の歴史でそれまでにない空前の被害をもたらした第2次世界大戦。交戦国は59か国（当時の独立国大半を占める）、戦死者・犠牲者は少なくとも6千万人以上。軍人どうしの戦いだけでなく、その犠牲者の半数は一般市民でした。富・財産の破壊はいうにおよびません。ナチ・ドイツのユダヤ人撲滅や日本軍のアジアの人々に対する大虐殺は単なる戦争ではなく人類に対する許すことの出来ないものでした。世界人民はファシズム打倒に立ち上がり新しい戦後の国際社会が創られました。その柱となったのが国際連合です。その前文には「われらの一生のうちに二度まで言語に絶する悲哀を人類に与えた戦争の惨害から将来の世代を救い、基本的人権と人間の尊厳および価値と男女及び大小各国の同権とに関する信念をあらためて確認し、」と謳い、それまでの戦争が国家と国家の争いであった認識から、人間の命を大切にするという基本的人権・人間の尊厳の問題にしなければならないとしたのです。今だ人間の歴史になかったことを宣言したのです。日本国憲法の前文・9条はそのことを正面から取り上げた初めての国になったのです。

.....

